



ダイハツ工業株式会社 九州部品センター センター長の竹中崇亮さん(左)と副主任の下西謙二さん。

**PFUスキャナー
導入事例**

製造



ダイハツ工業株式会社 九州部品センター
業種：製造
出荷先数：販売会社13社 ほか



物品受領書をスキャンし、ファイル名の付与とフォルダー仕分けを自動で完了

「PaperStream Capture」をフルに活用し紙保管からデータ保管へとスムーズに移行

ダイハツ工業株式会社 九州部品センターは、ダイハツの自動車部品を九州全域の販売会社に供給するためのハブになる重要拠点です。同センターではこのたび「fi-8150」を導入し、部品出荷時に受け取る物品受領書をスキャンしてデータ化することで、検索の迅速化による企業統制のレベルアップを実現し、保管スペースの問題も解決しました。「PaperStream Capture」のゾーンOCR機能を活用したフォルダー仕分けやファイル名自動付与により、データ保存を効率化している点も要注目です。大分県中津市の同センターを訪ね、具体的な運用についてうかがいました。

- 課題** 物品受領書を紙で保管していたため、大量の受領書の中から特定の受領書を見つけるのに時間がかかることが予想された。また、保管のためのスペースが逼迫していた。
- 解決法** 「fiシリーズ」で物品受領書をスキャンし標準添付ソフトウェア「PaperStream Capture」の機能でファイル名の付与とフォルダー仕分けを自動で完了するように設定。
- 効果** データ保管(PDF)へと移行したことで、キーワード検索が可能になり、急な監査にも対応できる体制が整うなど企業統制のレベルが向上。書類の保管スペースも不要になった。

物品受領書をスキャンしてデータで保管、紙保管にまつわる諸問題を解決

— **ダイハツ工業株式会社 九州部品センター センター長の竹中崇亮さんと、同じく副主任の下西謙二さんにうかがいます。九州部品センターの成り立ちと役割について教えてください。**

竹中さん 当センターはダイハツ工業が国内に有する3か所の部品センターの一つで、九州の販売会社、いわゆるダイハツのディーラーから注文のあった自動車部品を翌日までに届けることをミッションとして、2019年に設立されました。サプライヤーから供給される部品を集約してストックするほか、車両や部品を製造するダイハツ九州株式会社の敷地内に立地しているため、ダイハツ九州で製造した部品に関しては九州の販売会社に直接発送もしています。

— **このたび「fi-8150」を導入して実施された改善の概要をお聞かせください。**

下西さん 当センターと一部出荷先との間で、部品の納品書と物品受領書のやり取りが紙で発生し、当センターは最終的に物品受領書

を受け取ります。これを従来は紙のまま保管していましたが、紙には経年による劣化の危険、検索の難しさ、保管スペースの逼迫といった問題が付き物です。そこで物品受領書をスキャンしてデータで保管する方式に変更し、紙保管に付随する複数の問題を解決しました。スキャナーの運用は2023年1月から開始しています。



九州部品センターでは九州各地の販売会社に向けてさまざまな自動車部品を出荷しています。



同センターではA4スキャナー「fi-8150」を導入し、物品受領書の保管を紙からデータへと移行しました。

物品受領書を段ボールで保管していたため検索が難しく、場所も取っていた

— 物品受領書の発生過程や形態について教えてください。

下西さん ダイハツ九州で生産した車両を購入者であるお客様にお引き渡しする前に、販売会社ではカーナビやETC車載器などお客様が注文された部品を架装します。ただ月間の販売台数が多いことから、作業負荷を分散させるために当センター隣の棟にあるダイハツ輸送株式会社の工場でも部品の架装作業を行っています。

このとき部品は当センターから出荷しており、工場は販売会社からの委託で架装を行います。そのため当センターから部品を工場に出す際、販売会社宛での納品書を添付することになります。納品書はA4縦の普通紙で、下方の4分の1が物品受領書になっています。工場では納品を確認したのち、販売会社に代わって物品受領書に受領印を捺し、物品受領書を切り離して当センターに戻します。

納品書/物品受領書は車両1台につき1枚で、車両識別番号が付されてデータベースに紐付いています。発生件数は一日あたり約120枚です。

— 紙保管時代に発生していた問題を具体的に教えてください。

下西さん 物品受領書は横長でサイズが小さいため、日付ごとにバンドで留めて段ボール箱に保管するほかなく、何かの理由で過去の物品受領書を取り出す必要が生じた場合は箱と束を探し出し、

1枚ずつめくって探すこととなります。実際に発生したことはありませんが、急な監査のときなどにこれでは困ります。

竹中さん 企業の統制上、早急に取り出せるに越したことはありませんが、紙保管だとそうはいきません。この点が一つの問題でした。

— 保管スペースについてはどのような悩みがありましたか。

下西さん 狭い書庫の中、2019年4月から2022年12月までの物品受領書だけで大きめのラックが1本埋まっています。

竹中さん 現在はダイハツ九州で生産する車両が増加傾向にあり、物品受領書は7年間の保存が義務づけられているので、どんどん増えていくこととなります。この点でも紙からの脱却が必要でした。



受領印を捺して切り取られた物品受領書。これが一日に120枚ほど発生します。



書庫のラック1本を埋めた、2019年から2022年までの物品受領書。

「ゾーンOCR機能」を活用したフォルダー仕分け・ファイル名付与によりデータを手間なく保存

— 「fi-8150」導入後は、「fiシリーズ」の標準添付ソフトウェア「PaperStream Capture」の「ゾーンOCR機能」を活用されているとうかがいました。

下西さん 物品受領書の車体識別番号と販売会社名の両方をOCR処理する設定にしています。これによって、スキャンしたイメージデータには車体識別番号がファイル名として自動で付与されると同時に、販売会社別のフォルダーにイメージデータが自動で仕分けされます。仕分けする販売会社数は13社です。

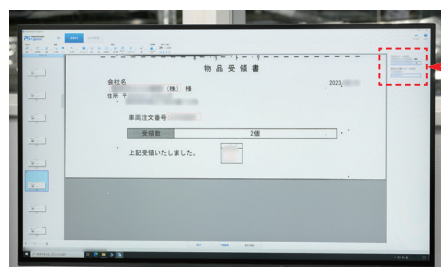
— 読み取り結果の確認はどのようにされていますか。

下西さん スキャン後の確認画面で1枚ずつチェックし、誤りがあれば修正します。スキャンから修正完了までに要する時間は20分程度です。スキャンを終えた物品受領書は1~2週間後に廃棄して

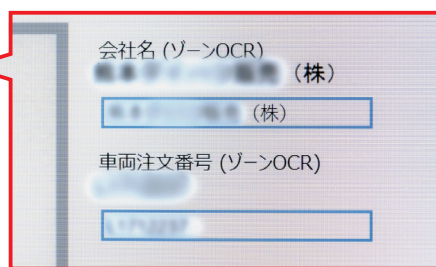
います。データの保管期間は紙と同じく7年間です。

— データ化によって手早く検索できるようになり、スペースの問題も解決しました。そのほかにもメリットはありましたか。

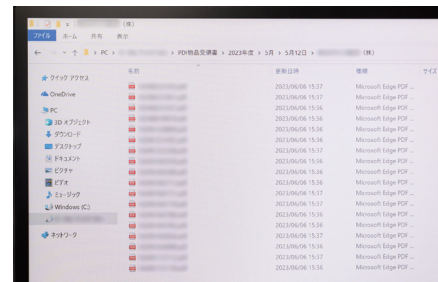
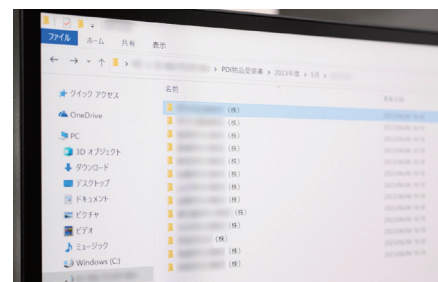
竹中さん 物品受領書のチェックが簡単になったので、誰にでもできる作業になりました。また今後、蓄積したデータを何らかの分析などに使える可能性が生まれました。それらもデータ化のメリットといえます。



スキャン後の確認画面。読み取りエラーは画像を見ながらマウスでOCR枠を少し動かすだけで修正できます。



OCR処理した会社名(上)がフォルダー名になり、同じく車両注文番号(下)がイメージデータのファイル名として付与されます。



上がフォルダーの階層、下がフォルダー内。ファイル名の付与とフォルダーへの仕分けが自動で完了します。

